

記事内容

- ☆平和行動 in 沖縄
- ☆東日本大震災ボランティアレポート
- ☆男女平等参画推進「トップセミナー」
- ☆就職面接会 / 女性委員会避難所ボランティア実施 / 青年委員会ユースラリー
- ☆カンパ活動 / もうすぐ選挙 / 8月の行動予定表
- ☆あけぼのビル

「願う」平和から「叶える」平和へ つながろうNIPPON!

2011平和オキナワ集会

「慰霊の日」にあわせ、6月23～25日の日程で「連合平和行動in沖縄」が開催された。連合埼玉からは18名、全国から約1,310名(昨年13名、約1,260名)が参加した。

23日は、那覇市民会館において、「2011平和オキナワ集会」が開催され、会場入口では東日本大震災救援カンパへの寄付を目的とした、沖縄物産展が開催された。

24日は、連合群馬・連合埼玉合同フィールドワークで南部戦跡を巡り、夕方6時から県庁前広場での「米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本改定を求める集会」に参加。その後、牧志公園に向けて国際通りを力強いシュプレヒコールで行進した。



高橋 和哉

唯一の地上戦が行われ、20万余の尊い命が失われた沖縄。戦後66年経った今も、苦しみ戦い続ける沖縄を、参加者一人ひとりが、見て、聞いて、感じて、「基地のない、平和な沖縄」を取り戻すため、地域や職場で

運動の輪を広げていく決意を新たにした。

平和行動は広島、長崎、そして、根室へとつないでいく。二度と悲惨な歴史を繰り返さないために。



集会写真

日程

1日目
(6/23)

■2011平和オキナワ集会

時間 14:45～17:00

会場 那覇市民会館大ホール

内容 第1部 日米地位協定の抜本改定を求めて

○シンポジウム

第2部 平和式典

○黙とう

・主催者あいさつ ・歓迎あいさつ

・来賓あいさつ ・来賓紹介 ・平和メッセージ

・ピースラリー ・平和アピール

2日目
(6/24)

■フィールドワーク

内容 <戦跡コース>南部戦跡に学ぶ

■米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本改定を求める行動

内容 ・オープニング

・県庁前県民広場

・デモ行進(県庁前→国際通り→牧志公園)

参加者氏名

- 小谷 康之 (UIゼンセン同盟・富士薬品ユニオン)
- 梅沢 章 (JAM埼玉・金子農機労働組合)
- 坂尻 勲 (自治労・越谷市職員組合)
- 横溝 光男 (自治労・川越市職員組合)
- 田中 人史 (情報労連・上原ネームプレート労働組合)
- 稲田 淳 (情報労連・上原ネームプレート労働組合)
- 坂本 修 (運輸労連・ヤマト運輸労働組合西埼玉支部)
- 山中 智裕 (運輸労連・関東通運労働組合)
- 竹内 信夫 (運輸労連・日通児越運輸労働組合)
- 平多 茂雄 (川越・西入間地域協議会・本田金属労働組合)
- 村田 幸範 (比企地域協議会・ヴァレオ労働組合)
- 井上 宗一 (西部第四地域協議会・太平洋セメント労働組合)
- 小日向祐幸 (朝霞・東入間地域協議会・ヤマハ労連埼玉支部)
- 沼尻 俊彦 (東部地域協議会・越谷市職員組合)
- 田島 栄作 (北埼玉地域協議会・曙プレーキ工業労働組合)
- 甘浦 大 (連合埼玉青年委員会・全日通埼玉支部)
- 高橋 和哉 (連合埼玉執行委員・全農林労組関東地方本部)
- 木村 俊之 (連合埼玉副事務局長)



小谷 康之

この季節になると毎年、テレビ等でも慰霊祭の風景や平和についてのドキュメンタリーを目にすることがありますが、実際に自分の目で見聞きし行動することで、改めて平和という言葉の重みを感じました。過去の米軍による卑劣な侵略、それによって被ってきた多大な被害、その後の無秩序な地位協定、我々が行動することにより真の平和実現に少しでも貢献でき、後世に伝わっていけばと感じました。



梅沢 章

わたしは、沖縄での連合の2つの集会とデモなどに参加して「鬼畜米英」の戦争の時代からアメリカに従属する今日に至るまで、基地の島・沖縄の人々の圧伏された怒りを、ほんの一端でしかなかったかも知れないが、肌で感じ怒りを新たにしました。日米地位協定によって米兵などが犯した犯罪に「公務中」を理由にして米側に治外法権的な特権が認められている。それは不条理であり抜本的改定を実現しなければならないと思う。



横溝 光男

沖縄の戦後は終わっていない。戦後66年、返還から39年、何一つ変わっていない。そんな言葉を聞くと私たちは何をしなければならないのか。

今回の平和行動で、日米地位協定の話や、基地の現状を聞き、戦跡を訪ね、戦争体験者の映像を見た。そして、できることと言えば、今の沖縄の現状を伝えることによって、沖縄の現状が少しでも改善されるよう、また、戦争を二度と起こさないようにしなければならないと思った。



ひめゆりの塔



坂本 修

沖縄といえば、青い海と空、白い砂浜に美しい珊瑚礁と戦争を知らない私達の世代は普通に思う。しかし、66年前の沖縄は、物凄い数の軍艦や空母に埋め尽くされた海、戦闘機で暗くなる空、雨のように降る砲弾、逃げ場の無い、想像も出来ない恐怖の中に、何の罪も無い子どもや、お年寄り、体の不自由な人までもが巻き込まれた。そして多くの命が奪われ、また自ら命を絶った。二度と、こんな悲しい戦争が起きぬよう、正しい歴史を次世代に伝え世界に発信する事が私達の責任だと感じました。



～構成組織のトップによる「男女平等参画推進宣言」～

昔から「男は仕事、女は家庭」という考え方がありました。今もそういう風潮があると思います。この風潮を変えるためにも男女が共に助け合う社会へこれからも取り組んでいきたいと思ひます。

基幹労連埼玉県本部 委員長 天沼 好弘



平和オキナワ集会 挨拶をする連合古賀会長



坂尻 勲

2日間の平和行動を終えて1番印象に残ったのは、二日目のフィールドワーク戦跡コースの糸数アブチラガマ見学です。ガイドさんのわかりやすい説明で、避難された民間人や軍人の今では考えられないような悲惨な暮らしを知る事ができました。

66年前におきた戦争の傷跡が未だ深く残っている現状と、現在二つの大問題である米軍基地と日米地位協定の事を職場の仲間や家族に伝え、共有して平和行動がより大きなものとなっていければと思います。



田中 人史

沖縄は台風5号の影響で悪天候でしたが予定通りに行われました。

一日目は、湿度もありとても蒸し暑い日でした。66年前のあの日も暑く、その中を恐怖と空腹でいた人達の苦しみが感じられました。しかし空港から「2011平和オキナワ集会」へ向かうタクシーで運転手の方が、「当時は基地やビルも無く風が通り今よりも涼しかった」と話してくださいました。

二日目に沖縄で戦死した県外の人達の慰霊碑がある平和祈念公園に行き、埼玉の塔で黙祷しました。次に向かった先がひめゆりの塔やアブチラガマ(洞窟)です。そしてガマの中に入り、広島、長崎の原爆などは違う戦争の恐ろしさを感じました。戦争の体験者も高齢で私達が直接話しを聞ける唯一の世代で次の世代に伝える義務があるとガイドの女性が声を大にして言っていたのが印象的で、平和行動の大切さを強く感じました。



稲田 淳

今回のフィールドワークで一番印象に残ったのは、アブチラガマです。アブチラガマは、元々糸数集落の避難指定地だったが、日本軍の陣地壕や倉庫として使用される事となった。戦時中には、陸軍病院・糸数分室として利用されて、多い時には1,000名近い患者達が運ばれ、まさに地獄の様な有り様だったそうです。

私は恥ずかしながら、今回の平和行動で、この悲惨な現実を知る事となりました。心から世界の恒久平和を祈ります。



山中 智裕

沖縄と言うとリゾート地というイメージが基本的にあったのですが、特に2日目の南部戦跡を訪問して島民、日本各地からの日本兵などわかっているだけで二十数万人も亡くなった、というのを知って自分の中の認識も改めねばならないとも思いましたし、周りの人々にも知ってもらいたい事だと思いました。なかなか出来ない体験をさせて頂きありがとうございました。



竹内 信夫

沖縄平和行動で、平和の大切さや戦争の悲惨さ、地元沖縄の苦しみ、悲しみ、怒りに直接触れることができました。これから戦争の恐ろしさ、平和への願いを自分の家族、仲間に伝えていくとともに、早く沖縄に基地もない、爆弾もない平和で問題のない島になってほしいです。



平多 茂雄

今から66年前、この沖縄の地で多くの尊い命が犠牲となった沖縄戦争は、結果として何をもたらしたのだろうか。日本唯一の南国リゾート地である沖縄の表の顔と裏の顔を、今回の平和行動に参加することで初めて知った。

「平和祈念公園」にある平和の礎に刻まれる20数万の戦没者、地獄さながらの野戦病院に向かい「ひめゆり女学生」、多くの住民が犠牲となり逃げ込み自決を迫られた「糸数アブチラガマ」など、戦争の惨劇に触れ、当たり前である「平和である」事の本質を考えさせられた。



村田 幸範

今回、沖縄の方々の生の声を聞き、改めて平和行動の意義を再認識しました。平和オキナワ集会では、米兵による犯罪や事故が毎日4~5件発生しているが、日本の警察や司法が介入できず、沖縄県民の方々は不安な毎日を過ごしているのが実態であり、米軍基地の見直しや日米地位協定の改定が急務である事を肌で感じました。またフィールドワークで訪れた南部戦跡で見た戦争の悲惨さを胸に刻み、平和の尊さを伝えてやりたいと思います。



井上 宗一

平和ボケしている自分にとって、今回の訪問は考えさせられるものであった。地元の人々の話を聞く事がないため、同じ日本の中にながら温度差があるように思えた。

集会にも参加したが、遺骨の収集や不発弾の処理などが未だ完了していないとの話を聞き、戦争はまだ終わっていないと感じた。

戦時中も戦後も沖縄県民の犠牲は大きすぎるものであり、これを少しでも和らげ、解決の方向にいくために何ができるのか考えると自分が無力であることを感じてしまう。



埼玉の塔



平和の実現に向け
デモ行進



戦跡コース：糸数アブチラガマの説明を受ける



小日向 祐幸

戦争の傷跡がこんなに深く、尊い命を自ら絶つ悲惨さ。糸数壕で伝えられた事柄は今では考えられない事ばかりで、助かる命が当たり前で人が亡くなって行く。私達が「平和」を語る上で、戦争を簡単な解釈で語ってはいけなくて今回の行動で痛感しました。戦争を体験してない私達がどう受け止め、次はどう伝えていくか、日米地位協定に対しても連合としてどうすれば国が決断をし行動するか、これから皆さんと一緒に考えて行きたいと思います。



沼尻 俊彦

戦後66年が過ぎたにも関わらず、沖縄には未だに戦争の傷跡が残っている。今回、フィールドワークで南部戦跡を見て回り、何度訪れても自分に置き換えて胸に込み上げてくるものがある。沖縄は日本の捨て石にされ、唯一地上戦が行われた地、20数万人の尊い命が奪われ、血が流れた。そんな沖縄に日本にある米軍基地の74%が集中していることは断じて反対していかなければならないと思う。

今、大事な事は歴史を語り継ぐこと、今を伝えることだと思うので、私ができることから頑張っていきます。



田島 栄作

1日目は那覇市民会館での平和集会、2日目は平和祈念公園・ひめゆりの塔の見学から県庁前広場での平和集会とデモ行進というスケジュールで実施されました。行動中は常に台風の影響を受け、晴天に恵まれることがありませんでしたが、連合群馬の皆さんと一緒にバスで、よい仲間と綺麗なバスガイドさんには恵まれました。今後も北埼玉を「ゆたく うにげー さびら」。



甘浦 大

私は糸数アブチラガマの体験は忘れません。この洞窟が南風原陸軍病院の分室として確実にあった過去を、三号室の異常な雰囲気を感じました。太陽の光が届かない天然洞窟の中で、懐中電灯を照らしながら歩いた270mの足元には確かに66年前の、こいた人々の無念や苦痛や恐怖が…精神となった今でもしっかりと残っておりまして。暗闇の中、照らす懐中電灯の光の帯には、洞窟内の66年前の人々の精神の霧が映っておりまして。

Volunteer report

東日本大震災救援ボランティアレポート

救援活動を継続

6月26日(日)より7月3日(土)の5泊7日の車中1泊で岩手県大船渡市へ第8次関東ブロック救援ボランティアに参加しました。

ベースキャンプは住田町、小学校の廃校を体育館はそのままに、校舎は公民館に建て替えられた所です。報道機関が連合のベースキャンプ取材したところ「まるで避難所ですね」とコメントがあったと聞きました。連合だから綺麗な宿舎に泊まっているとでも思っていたのでしょうか?ボランティアの基本は自己完結。そして、被災された方々と目線を合わせるのだと思います。宿舎も食事も…。

作業内容は、立根小学校の体育館を物資倉庫として使用してきましたが、小学校からの要請で、半面を子どもたちが使えるように館内の物資整理とあわせて移動を行いました。

しかし、7月1日に仮設住宅へ入居開始に伴う生活備品の各個配布

を行った後に「他の仮設住宅へ配布予定の備品を立根小学校の体育館に仮置きする」と聞かされ、初日の作業に虚しさを感じた一面もありましたが、行政を含め現地の錯綜している現実を改めて実感させられました。

また、マンション周りの瓦礫撤去では、ブリクラやぬいぐるみ、プラレールの電車や線路などが掘り出され、自分の子どもが幼いころ遊んでいた光景と重なり、この子達の無事を祈らざるを得ませんでした。

連合は民間団体で唯一、継続してボランティアを派遣し被災地の復興を支えています。8月・9月は、地方連合会が中心となり派遣を継続していきますので、連合埼玉構成組織の組合員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

<副事務局長 木村 俊之>

求められているものは刻々と変わっていく

6月19日(日)より27日(月)までの8日間、福島県会津ベースキャンプのボランティアに参加しました。

活動の拠点は主に郡山市にある「ビッグパレット福島」での作業で、先ず、おたがいさまセンターのボランティア登録を完了した後、支援物資の配布作業を行いました。大量の物資は3月に集められ届いた冬物の長袖のセーターや上着が中心。このときの郡山市は32℃という梅雨



自衛隊仮設風呂のテント



連合関東ブロックのメンバー

入り前の真夏を思わせる天気が続いていたので、求めている夏物衣類や下着類がなく手ぶらで帰ってしまう人もいて、避難者が求めているものは刻々と変わっていることを実感しました。

このビッグパレット内の居住スペースは畳一畳強ほどの広さで、1階は仕切りの高さが2メートル程度ありプライバシーは少しは保たれていますが、2・3階では段ボールの仕切りで、高さが70~80cm程度、歩いて通るだけでも居住スペースが見えてしまい精神的にもよくないように思われました。

また、ビッグパレット入口付近には自衛隊の仮設風呂、洗濯機・乾燥機が設置されていました。1階のロビーでは、芸能人等が慰問に訪れサイン・握手会があったり、子どもたちのためにと金魚すくいが行われていたり、避難者の楽しみや憩いの場所となっていました。この避難所も8月には閉鎖となる予定です。避難された方たちが、一日も早く自立できることを願わずにはいられません。

<特別執行委員 田尻 富子>

どんな場面でも臨機応変に

7月10日から17日までの8日間、岩手県宮古市のベースキャンプの運営スタッフとして木村副事務局長とともに参加してきました。

ベースキャンプに来るボランティア隊員のために日常のお世話をするスタッフで、具体的には、ボランティアに必要な機材を整えたり、社会福祉協議会から要請される作業内容にそって隊員の割り振りをしたり、作業場所までの隊員を送迎するなど「各隊員がスムーズにボランティアに参加するための準備」や、食事の手配や準備、宿泊場所の掃除など「ベースキャンプ運営のための業務全般」です。

これだけ多くの隊員(50人)がいるとトラブルはつきもので、作業中に

具合が悪くなり病院へ連れて行ったり、急な日焼けで腕が「やけど」になり皮膚科に連れて行ったり、また、食事を近所の弁当業者に手配していましたが、ある日の夕食で1食分不足していたり、といったトラブルにも臨機応変に対応していく必要があります。何事もなく1日が終わることは珍しく「一日一トラブルはある」と思っていて間違いはありません。

ある隊員の方から「ボランティアしているつもりが、いつの間にかボランティアされていました、ありがとう」とスタッフに気遣いいただき、復興支援ボランティアとはまた一味異なる充実感を感じました。

<副事務局長 小穴 真一郎>

～構成組織のトップによる「男女平等参画推進宣言」～

私たちの職場にも徐々に女性が増えてきました。男女平等参画社会を実現するため、今後も働きやすい職場の環境整備のため取り組んでいきます。

JR総連埼玉県協議会 議長 西島 光昭



『制度で競うな!ワーク・ライフ・バランス ～働き方の改革を～』

男女平等参画推進「トップセミナー」

6月22日(水)さいたま共済会館601会議室において、男女平等参画推進「トップセミナー」を開催した。このセミナーは、構成組織・加盟組合のトップクラスと民主党埼玉県連及び男女平等参画推進委員会、青年委員会、女性委員会に参加を呼びかけ54名の参加があった。

開会にあたり、連合埼玉男女平等参画推進委員会・内田三四郎委員長より、「6月は男女平等月間である。男女平等参画推進委員会も試行錯誤しながら、男女平等推進標語を活用したメモ帳を作成し、広く意識高揚を図ってきた。また、トップセミナー開催に至るまでの経緯について、昨年度、開催した男女平等参画セミナーの鹿嶋敬先生の講演内容と担当者会議での論議を踏まえ、この運動が進まないのは何が原因なのか?男女平等に対するトップの意識がどの程度なのか?といったことを考慮し、今回の開催となった。是非、このセミナーを通じ各組織も男女平等について紐解いてほしい」との挨拶がされた。



連合埼玉男女平等参画推進委員会 内田三四郎委員長



ボッシュ株人事部門人事企画グループ セクション・マネージャー 新井信行氏

はじめに、今年度「あったか子育て企業賞・大賞」に輝いたボッシュ株式会社より人事部門人事企画グループ、セクション・マネージャーの新井信行氏を招き、取り組み事例として子育て支援制度や取り組み状況ワーク・ライフ・バランスを実現するための体制や意識改革などについて報告をいただいた。

基調講演として東京大学大学院情報学環教授・佐藤博樹先生より「制度で競うな!ワーク・ライフ・バランス～働き方の改革を～」をテーマとした次のような講演を受けた。



セミナーの様子



東京大学大学院情報学環教授 佐藤博樹氏

組合員の価値観、望ましいとする生き方やライフスタイルが変化してきたために、ワーク・ライフ・バランスが大切になっている。今は組合員にとって仕事だけではなく家庭生活(子育て・介護・家事など)、自己啓発、地域生活、社会貢献などが重要になっている。今日までは、「時間制約」のない人を想定した社会であったが、これからはライフスタイルに合わせて時間意識を高める取り組みをするべきである。そのことを踏まえ、時間の制約を前提とした仕事の管理・働き方が必要となってくる。自分のための時間創出が、結果として仕事の質を高めることに貢献することになる。そのために、働き方の見直しを考えるとともに、職場における「お互い様意識の定着」をはかる取り組みが必要になってくる。など、制度だけではなく多様な価値観や生き方を受容できる職場作りが重要であるとの講演であった。

全体を通じてワーク・ライフ・バランスの推進は、個々人のニーズに合ったライフスタイルを実現させること、しいては会社の生産性をあげることに繋がる。そのためには、制度の充実だけではなく、制度を利用しやすい職場環境作りが大切である、と実感させられるセミナーとなった。

既卒者対象に合同就職面接会開催される

6月16日(木)に大宮ソニックシティにおいて、新卒者の就職内定率が厳しさを増している情勢を踏まえ、就職支援活動として埼玉労働局と合同で、大学など卒業後3年以内の既卒者を対象に就職面接会を実施した。面接会には69社がエントリーをし、連合埼玉加盟組合の働きかけにより賛同していただいた企業として、(株)ヤオコー、三菱電機ホーム機器(株)、埼玉県建設労働組合連合会の3社が参加した。当日はリクルートスーツに身を包んだ既卒者が各企業のブースに履歴書などを提出し、面接を受けた。

埼玉労働局亭谷局長に続き、あいさつに立った宮本会長は「生まれた時代の経済情勢によって就職に不公平ができることは、非常に問題だと思っている。まじめに働いて、税金、医療費、年金を払うことが国の安定にもつながる。本日参加された企業の中には、中小企業でも素晴らしい業績をあげているところが多くある。是非、この機会にがんばって就職を勝ち取ってほしい」と激励をこめてあいさつをされた。

女性委員会 避難所でのボランティア活動を実施



衣類の仕分け作業中

6月25日(土)、双葉町役場の要請を受け、加須市・旧騎西高校にある避難所の物資の仕分けボランティアを実施した。

ボランティアには、連合埼玉女性委員会を中心に6名が参加し、体育館で洋服の夏物と冬物、子供服をサイズ別に仕分ける作業を行った。また、汚れの激しいものや使用感の多いものについては、海外の恵まれない子ども達に贈られるそうだ。

物資全体を見渡すと、男性女性に限らず、下着類が不足しているように感じた。復旧までには、まだまだ時間がかかりそうだが、1日でも早い復旧・復興を期待したいと思う。



ボランティアに参加した女性委員会のみなさん

青年委員会ユースラリー「震災復興、今、自分ができること」

7月9日(土)、10(日)に青年委員会ユースラリーを開催しました。今回は電機連合のご協力をいただき、群馬県にある(株)タムラ製作所の誓湖荘とたくみの里にて、青年層の人材交流・人材育成を目的に開催しました。

まずは青年委員会をより身近に感じてもらうために、今期の活動内容の報告を行いました。5月に開催した防衛省・国会見学の報告を梶原事務局長より、6月の沖縄での平和行動の報告を甘浦幹事より行いました。両名とも撮影した写真を活かして、分かりやすく伝えました。

続いて、サラリーマン登山家として脚光を浴びたポッシュ労働組合出身の大山光一さんより基調講演をして頂きました。仕事と生活の調和を図り、ワークライフバランスを実践し、自らの夢を実現させた体験談を通じて「自分の可能性を信じ続けることが大事である」ということを感じました。



グループ討議

その後、「震災復興、今、自分ができること」をテーマとしたグループ討議を行いました。東日本大震災の影響や職場などでの対応、また自分たちが

行動したこと、今後行動していくことなどを中心に議論し、グループ毎に発表し共有化を図りました。2日目には、たくみの里にて、こんにゃく作り体験を行いました。こんにゃくの芋をペースト状にしたものをこねて、自分たちの手で自由に整え、思い思いの形のこんにゃくを作りました。皆、童心に戻って、こんにゃく作りを楽しむことができました。

2日間に渡り開催した今回のユースラリーでは、産別間の枠を越えた交流の場として、また多くの学びの場として非常に有意義で貴重な体験をすることが出来ました。今回のユースラリーにおいて貴重なお話を聞かせて頂きました大山さん、ご協力いただきました誓湖荘のスタッフの皆さん、たくみの里のスタッフの皆さんへ感謝いたします。ありがとうございました。



講師：大山 光一氏



集合写真

サービス・流通連合埼玉県支部 渋澤 大輔

～構成組織のトップによる「男女平等参画推進宣言」～

女性の働きやすい職場は、男性にとっても働きやすい職場です。国公総連埼玉は職場・家庭・地域など、あらゆる場所で真の男女平等が実現するよう、これからも取り組んでいきます。

国公総連埼玉 執行委員長 高橋 和哉



東日本大震災義援金カンパ活動

先月に引き続き、6月29日(水)午後6時から浦和駅東口において、東日本大震災義援金カンパ活動を行いました。帰宅途中の学生や会社員などたくさんの方が協力してくださり、12,610円集まりました。

震災復興には、まだまだ時間と費用が必要なため、今後もカンパ活動を続けていきたいと思っております。みなさまのご協力をお願いいたします。

今後のカンパ活動の日程

○8月30日(火) 18:00～ 浦和駅

○9月29日(木) 18:00～ 浦和駅

各地域協議会も各駅にて実施しています。



= もうすぐ選挙 =

毛呂山町議会 議員選挙

◆岡野 勉 (おかの つとむ) 55才(社民党・現3・連合埼玉推薦4回目)
告示日:2011年8月16日(火) 投票日:2011年8月21日(日)

小川町議会 議員選挙

◆江原 隆二 (えはら りゅうじ) 63才(社民党・新・連合埼玉推薦初・組織内)
◆井口 亮一 (いぐち りょういち) 59才(民主党・現1・連合埼玉推薦2回)
告示日:2011年8月23日(火) 投票日:2011年8月28日(日)

嵐山町議会 議員選挙

◆河井 勝久 (かわい かつひさ) 66才(社民党・現3・連合埼玉推薦3回目・組織内)
◆金丸 友章 (かねまる ともあき) 61才(民主党・現1・連合埼玉推薦初)
告示日:2011年9月27日(火) 投票日:2011年10月2日(日)

現在予定される8月の日程表です

8月		行事等	
		連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	月	第5回政策制度委員会(13:30～・連合埼玉会議室)	県央地域協議会第7回幹事会(17:00～・中央労金上尾支店)
2日	火	ネット21「NPOインターンシップ報告会ならびに修了式」(10:00～・あけぼのビル502)	埼玉県最低賃金審議会
3日	水		
4日	木	ライフサポートステーション運営会議(13:30～・連合埼玉会議室)	連合平和行動in広島(～8/6・広島)
5日	金		埼玉県最低賃金審議会
6日	土		
7日	日		連合平和行動in長崎(～8/9・長崎)
8日	月	第9回四役・執行委員会(ときわ会館)	埼玉県最低賃金審議会
9日	火		
10日	水		埼玉県最低賃金審議会
11日	木		埼玉県最低賃金審議会(予備日)
12日	金		社会保険診療報酬支払基金幹事会
13日	土		
14日	日		
15日	月		
16日	火		毛呂山町議選告示
17日	水		
18日	木		
19日	金	四役研修会(～20日)	
20日	土	ネット21運動「山の学校inときわ」	
21日	日		毛呂山町議選投票
22日	月		
23日	火	青年委員会第8回幹事会(17:00～・連合埼玉会議室)	①埼玉労協企画委員会 ②埼玉県最低賃金審議会 ③小川町議選告示
24日	水		①埼玉県最低賃金審議会(予備日) ②川口・戸田・蕨地域協議会第5回幹事会(18:30～)
25日	木	シニア連合第5回幹事会(9:30～・連合埼玉会議室)	
26日	金		
27日	土		
28日	日		小川町議選投票
29日	月		①埼玉労協理事会(10:00～・ときわ会館) ②埼玉県最低賃金合同部会
30日	火	東日本大震災義援金カンパ(18:00～19:00・浦和駅東口)	
31日	水		

あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

厚生労働省は7月8日、「平成23年版労働経済の分析」(通称「労働経済白書」)を閣議報告し、公表した。労働経済白書は、賃金、労働時間、雇用、勤労者家計などの労働統計を経済学的に分析する報告書で、今回は「世代ごとに見た働き方と雇用管理の動向」と題し、自律的な景気回復に向け期待される雇用、賃金について、中長期的な視点から世代ごとの分析を行いつつ、東日本大震災後の労働経済指標も加味して今後の課題を検討している。

◆雇用管理と雇用システムの発展に向けた今後の課題

労働経済白書では、「世代をつなぐ雇用管理と雇用システムの主要課題」として次のように述べている。

バブル崩壊後、企業の経営環境が著しく厳しかったこともあり、人材育成や雇用慣行に関する考え方も大きく揺らぎ、そのことが若年層に与えた影響は大きい。バブル崩壊後20年が経過し、人材育成や雇用慣行に関する労使の考え方には、一定の収束がみられるが、この過程で翻弄されてきた若い世代を、再び、世代と世代のつながりの中に戻し、働くことでつながれた世代と世代の絆を強めていくことが必要であるとした上で、次の三つを主要課題としてあげている。

第一に、雇用の安定、確保を基本に、労使関係における人材育成の機能を改めて立て直していくこと。第二に、不本意なまま不安定な就業のもとで働く層の正規雇用化を強力に推し進めること。第三に、高学歴化のもとで、円滑な職業選択が果たせていない層に対する就職支援を強化することである。

◆企業が求める人材とは

労働経済白書のデータとして用いている、(独)労働政策研究・研修機構「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」(2011年)によると、今後、企業が労働者に対し求める能力としては、「チームワークや円滑なコミュニケーションで組織を運営する能力」、「技術や技能を部下や若手社員に継承しつつ組織全体をみながらマネジメントを行う能力」、さらに「これらを踏まえた上で、新たな価値ある製品やサービスを生み出していく能力」などをあげている。

一方、企業から見た最近の学卒新入社員は、「コミュニケーション能力やチャレンジ精神を持つ者が少ない」「自分で問題を解決しようとする当事者意識を有する者が少ない」

と指摘している。

さらに企業は、若手人材育成に向け、学校や家庭の役割として次のことを求めている。学校では、自分自身で考え、その考えをしっかりと表現するとともに、相手の話を聞いて理解できるという、いわゆるコミュニケーションに係る能力を身に付けさせること。家庭においては、基礎的な生活習慣や社会常識を身に付けさせることである。

◆雇用の安定・確保と人材育成

就業環境が厳しい中で、若手人材の採用と育成については、社会的期待がますます高まるものと思われる。その際、若者が社会の期待に応える人材へと成長していくためには、企業の取り組みのみならず、学校や家庭も含め、社会を構成する様々な立場のものが、相互に連携、協力し、社会全体として若者の育成に取り組んでいくことが必要であり、言うまでもなく、労働組合もその一翼を担わなければならない。

また、組織の中で育成された優れた人材の離職を回避するために、雇用の維持に取り組むことは、企業における技術、技能の継承という観点のみならず、経済変動のもとでも所得と消費を安定化させ、人々の心理的不安を払拭し、経済の底支えにつながる。経済変動に対応しうる雇用のセーフティネットの構築ともあわせ、雇用の安定と確保をはかり、長期雇用における人材育成を進めていくことが肝要である。

バブル崩壊後、今なお続く不安定就業の増加や人材育成機能の低下に対する反省とともに、賃金格差の拡大や平均賃金の低下が、国内需要の停滞を招いた要因のひとつであることを踏まえつつ、人的能力の形成をすそ野広く推し進めて行かなければならない。

そして、誰もが生き活きとやりがいを持って働き、つながること、人は安心して暮らすことができ、社会は活力を増していく。連合がめざす「働くことを軸とする安心社会」の実現こそが、日本の雇用システムの再構築につながるであろう。

私たちは、連合が5500万人雇用労働者の代表であることを改めて認識し、すべての働く人、働きたいと願っている人のために行動しなければならない。

2011.7.22